

令和元年度 岸和田市貝塚市清掃施設組合議会

議員視察報告

視察場所 大栄環境株式会社 和泉リサイクルセンター

視察日時 令和元年 11 月 13 日（水）

参加者 反甫旭 議長・田畑庄司 副議長・川岸貞利 議員・阪口勇 議員・中川剛 議員・南野敬介 議員・前園隆博 議員・井舎英生 議員・宇野真悟 議員・河合馨 議員・田中市子 議員・鳥居宏次 議員・松本妙子 議員・南加代子 議員

視察目的 災害廃棄物処理事業について、平成 30 年台風第 21 号による両市の災害廃棄物の受入れ先でもあった大栄環境株式会社和泉リサイクルセンター、その最終処分場及び処分場跡地利用による環境公園の視察

視察内容 施設視察及び業務内容調査

[業務内容に関する主な調査事項]

実施日	施設名	所在地	能力・規模等		竣工
令和元年 11 月 13 日	大栄環境(株) 和泉リサイクルセンター	大阪府和泉市	和泉エコプラザ 破砕選別施設 808.1t/日	管理型最終処分場 埋立容量 338万 ³ m	S54 年 10 月

<大栄環境株式会社 和泉リサイクルセンター>

岸和田市貝塚市清掃施設組合、岸和田市、貝塚市の 3 者と平成 31 年 3 月 27 日に「災害廃棄物処理に関する協定」の締結をしている大栄環境グループは、1995 年の阪神淡路大震災以降、国内で起こった大災害での災害廃棄物の処理実績がある。令和元年 10 月時点で、全国 58 市町村・一部事務組合との「災害廃棄物処理に関する協定」を結んでおり、地震や風水害等の自然災害発生時には、培ったノウハウで業務実施計画策定援助から災害廃棄物の処理を行うサポートを行い、災害廃棄物の運搬においては、容積 32.3 m³、最大積載重量 16 トンの天蓋脱着可能で堅牢なコンテナを 810 基保有し、限られた車両でも大量輸送が可能で、陸路が渋滞・寸断されていても輸送可能な海上輸送も確保し、適正かつ円滑・迅速に災害廃棄物を処理する能力を備えたグループである。

そのグループの平成 30 年台風第 21 号による岸和田市及び貝塚市の災害廃棄物の受入施設の一部でもあった大栄環境株式会社和泉リサイクルセンターは、大栄環境グループ創業の地となる大阪府和泉市の半径 2 km の地域内に、和泉エコプラザ、石膏ボードリサイクル施設、ガス化改質施設、コンクリート殻再生施設、管理型最終処分場、環境公園といった様々施設を配しており、これら個々の施設の充実と高度な連携により、収集運搬から、リサイクル、最終処分、地域貢献までを一貫して展開し、地域住民とリサイクル事業の共生を目指す施設である。

大栄環境グループは、災害廃棄物の運搬、分別、中間処理及び最終処分までを一貫して行う能

力を擁する希少な企業であり、有事の際に、和泉リサイクルセンターは、協定に基づき、災害廃棄物処理の第一優先的な最終処分場となり得るところでもあることから、大栄環境グループとは、今後も密に連携を図ることが望ましいと考えるものである。